

# 豊田市における流域の森林づくりの取組み

愛知県豊田市 農林課 副主幹 原田 裕 保

## 1 「水道水源保全基金」と「水道水源保全事業」

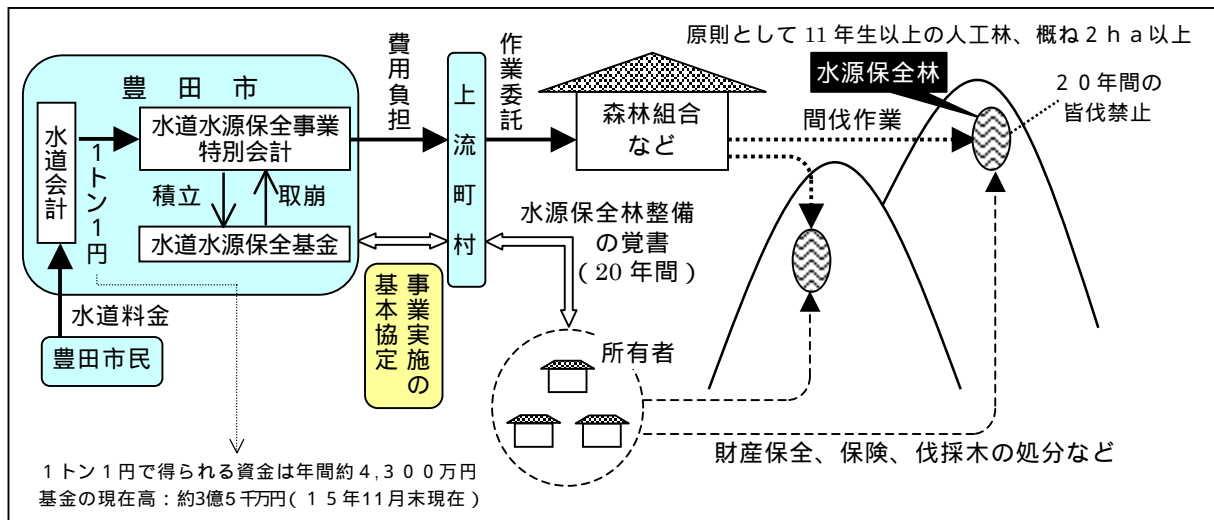
### ○概要

- ・豊田市は、「上水道使用量 1 m<sup>3</sup>(トン)当り 1 円」を、水道の水源となる上流の森林保全に充てることとし、これを積立てる全国初の「豊田市水道水源保全基金」を設け、平成 6 年 4 月から積立っています。そして、この基金を使った「豊田市水道水源保全事業」として、平成 12 年から上流町村の間伐事業を行っています。なお、基金の積立額は平成 15 年 12 月末で約 3 億 5 千万円となっています。
- ・豊田市の上水道はその原水の 8 割近くをこの川から得ています。将来にわたり、水道水が「豊かで安全でおいしい水」であるためには、森林の水源かん養機能を高めることなど上流の水源地の保全が必要です。豊田市水道水源保全基金は、この森林を保全するために創設されました。また水を供給いただいている上流部に対する豊田市民の感謝の気持ちでもあります。
- ・「豊田市水道水源保全事業」は、豊田市と上流 6 町村(藤岡町、小原村、足助町、下山村、旭町、稲武町)が協定を結び、人工林の間伐を所有者に代わって町村が行います。これに要する費用の全額を豊田市が基金を使って負担します。

### ○事業実績

- ・平成 12 年度 間伐面積 52 ha 1,900 万円(間伐、測量、杭など)
- ・平成 13 年度 間伐面積 86 ha 2,200 万円( " )
- ・平成 14 年度 間伐面積 94 ha 2,300 万円( " )
- ・平成 15 年度 間伐面積 128 ha 2,900 万円( " ) 予定

### ○豊田市水道水源保全事業の仕組み



## 2 環境林整備事業

### ○概要

- ・「豊田市水道水源保全事業」の“市内版”として「豊田市環境林整備事業」を行っています。この事業は水道水源保全事業と同じく、所有者に代わって全額公費(単独市費)で間伐を行うもので平成12年から実施。1団地2ha以上が原則ですが、豊田市内は小規模な所有者が多く団地のとりまとめが難しいことから、平成15年度は試行的に1ha以上でも行っています。なお、所有者には20年間の皆伐禁止などの制約が付きまします。
- ・また、平成13年度からは、環境林整備事業で切り出した小径間伐材を農林課が森林組合に委託して杭等に加工し、市の各課や学校、公園などに配布しています。

### ○事業実績

- ・平成12年度 間伐面積21ha 530万円(間伐)
- ・平成13年度 間伐面積28ha 890万円(間伐、杭作製)
- ・平成14年度 間伐面積38ha 988万円( " )



## 3 矢作川水源の森 間伐材利用プロジェクト

- ・愛知県では2005年に国際博覧会「愛・地球博」が計画されています。豊田市はこの博覧会に間伐材で作ったベンチやテーブルセットを設置し、来場者に間伐と森林整備の大切さ、そして間伐材の利用拡大を訴える予定です。
- ・このベンチ、テーブルセットは、デザインから製作まで市民参加で行います。現在第1次デザインコンテストが終了し、第2次製品化コンテストの募集を開始したところです。第1次デザインコンテストには全国から300点以上の応募があり、赤池学先生らの選考委員で入選作品を選定しました。

## 4 「森林塾」と「矢作川水系森林ボランティア協議会(矢森協)」

- ・豊田市は、国際NGO団体「(財)オイスカ」と共同で、昨年から「とよたオイスカ森林塾」を開催しています。この森林塾は森林ボランティアを目指す市民を対象に、間伐を中心とした人工林整備の理論と技術を教えるもので、昨年2回の開催に29名が、今年2月の第3回は20名が受講しました。
- ・そして昨年7月、昨年の受講生のうち23名が結束して「とよたオイスカ山守の会」を結成。人工林の整備を無償で行う活動を始めました。
- ・さらに、今年1月、この会を含む県内の6つの森林ボランティア団体が「矢作川水系森林ボランティア協議会(矢森協)」を結成。間伐を希望する素人山主さんとボランティア団体を結び付け、いっしょになって山仕事を行うコーディネート事業を始めました。間伐推進の新しいチャンネルになることが期待されています。